



# ターニングポイント 転換点

幕末動乱と統一山形

# 明治の 山形県師範学校

6 / 2 (土)

8 / 19 (日)



開館 時間 9時～16時30分 (16時まで入館できます)  
 休館 日 月曜日 ただし7月16日(月・祝)開館、翌17日(火)休館  
 8月6日(月)・13日(月)特別開館  
 入館 料 大人300円(20名以上の団体150円)、学生150円(20名以上の団体70円)  
 ※高校生以下無料、障がい者の方と付添の方は無料

**山形県立博物館** 〒990-0826 山形市霞城町1-8 (霞城公園内)  
 TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112  
 URL <http://www.yamagata-museum.jp/>

開館 時間 9時～16時30分 (16時まで入館できます)  
 休館 日 月曜日 国民の祝日(7月16日(月・祝)8月11日(土・祝))  
 入館 料 大人150円(20名以上の団体70円)、学生70円(20名以上の団体40円)  
 ※高校生以下無料、障がい者の方と付添の方は無料

**山形県立博物館教育資料館(分館)** 〒990-0041  
 山形市緑町2-2-8  
 TEL 023-642-4397  
 FAX 023-642-4403



「転換点——幕末動乱と統一山形——」

ターニングポイント



山形県下名所図会

本館会場

今年、近代日本の幕開けともいえる「明治」が始まって、百五十年という節目の年になります。「明治」をどのように捉えるかは、個人の考え方や歴史観によって様々です。

しかし、間違いなく日本は百五十年前に大きな転換点「ターニングポイント」にありました。国内外の脅威に推された江戸幕府が崩壊し、新たな明治政府は日本の近代化を目指し急進的な改革を進めました。

この「明治維新」と呼ばれる一連の動きは、当然のように中央の明治新政府からの視点で語られることが多いのですが、全国的・地域的な視野がなければ見えてこない一面もあります。

もちろん現在の山形県内にも幕末・明治維新の激動はあったはずですが、その実態やそこに至るまでの経緯などは、知られていないことも数多くあります。

本展では、かつて山形県におかれていた藩藩の動きを改めて見直し、戊辰戦争、奥羽越前同盟の成立と互撃等、動乱の時代を経て、統一山形に至るまでの過程をご紹介します。



旧山形藩士軍衣(個人蔵)



三島通書佩刀

関連行事

◆記念講演会

第1回 6月2日(土) 13時30分~15時  
講師：岩井 哲 氏  
(公財) 上山郷郷土資料館理事  
演題：「吉田大八・再考く庄内藩征討」との関わりがなかで」

第2回 7月8日(日) 13時30分~15時  
講師：栗原 伸一郎 氏  
(東北大学大学院文学研究科 学術研究員)  
演題：「奥羽越前同盟と南出羽地域——米沢藩・小藩・舟じ地——」

◆展示解説会

6月17日(日)  
7月1日(日)  
7月16日(月・祝)  
8月5日(日)

※いずれも 13時30分~14時  
本館第3展示室にて

「明治の山形県師範学校」

教育資料館会場

明治五年「学制」が公布され、わが国の近代教育が歩み始めました。新しい教育の啓蒙及び普及、教員の養成等、地方において近代教育確立の中心的役割を果たしたのが各府県に設置された師範学校でした。

本県では、明治十一年に県令三島通庸によって山形県師範学校が設立され、初代校長には旧米沢藩士豊藤篤信が就任、共に教育の近代化に力を尽くしました。明治三十四年には馬見ヶ崎河畔に新校舎が建設され、同校は飛躍発展の時代を迎え、後に「教育県山形」の名を全国に知らしめる原動力となりました。

本展は、明治期の貴重な学校建築の遺構である「旧山形師範学校本館」の魅力を紹介するとともに、山形県師範学校が歩んだ明治期の軌跡をたどって本県教育の近代化の歴史を振り返るものです。



新館山形師範学校



任持勝り

◆展示解説会

6月9日(土)  
7月14日(土)  
※いずれも 13時30分~14時、1階展示室にて



【本館交通アクセス】  
徒歩：J R山形駅西口から約10分  
車：山形道山形蔵王ICより5km(約15分)  
東北中央道山形中央ICより3km(約10分)

【教育資料館交通アクセス】  
バス：J R山形駅東口より「沼の辺行き」または「千歳公園行き」に東車、ともに「北高前」下車